

令和4年度 南部地区子ども支援 net 議事録

日 時：令和5年1月13日（金） 13:30 ～ 16:00

場 所：瀬戸内町役場 4階会議室

参加者：ここ園、スターズ、にこびあ、のぞみ園、三環舎、相支援のぞみ園、しゃきょう、なのはな園、奄美病院、東城保育所、住用保育所、田検保育所、高岡保育所、田検小、古仁屋小、田検中、大島養護、県療育センター、名瀬保健所、住用市民福祉課、宇検村保健福祉課、瀬戸内町保健福祉課

講師：鹿児島大 高橋氏

事務局：ぴあリンク奄美

計38名（講師事務局含む）



1. 開会あいさつ

瀬戸内町保健福祉課

信島 浩司 課長

2. 自己紹介

3. 資料説明及び事業報告

○奄美地区地域自立支援協議会

（子ども部会・子ども支援 net）とは？

※詳細に関しては別紙資料参照



4. ミニ研修

「発達支援における保護者との連携について」

鹿児島大学大学院臨床心理研究科 准教授 高橋 佳代 氏



5. グループワーク

「奄美南部での障がい児やその家族を支える人たちの連携について」

1 グループ(チャレンジド、ここ、スターズ、古仁屋小、奄美病院、瀬戸内町保健福祉課)

- ・数年前に比べて関係機関同士の連携（教育と福祉など）が取れるようになってきたと感じている。
- ・担当が変わることで、連携が途切れてしまわないように担当で引継ぎをしっかりと行ってもらいたい。
- ・保護者がいろんな機関に相談する際に、同じような情報を繰り返し話さないといけないということがある。
⇒情報共有をしっかりと行う事で保護者の負担を減らして行く必要がある。
- ・保健師として検診などで困り感のある子どもさんに関わることが多いが、年齢の低い子どもさんへの支援で難しさを感じている。（両親の困り感がまだ薄い。祖父母や周囲からの意見など）
- ・1ターンの方へ支援の難しさを感じることがある。（周囲からのサポート、価値観の違い等）
- ・ライフステージが変わる際の難しさを感じる。保育から教育、教育機関同士が引継ぎをしっかりと行っていくことが必要。
- ・オンラインを活用して、学校などともつながっていったらいい。



2 グループ

※欠席者多数の為、他グループへ統合

3 グループ（しゃきょう、ここ、住用保育所、田検中、住用市民福祉課、瀬戸内町保健福祉課）

- ・支援の必要性を保護者へ伝える際にエネルギーが必要になることがある。（受け入れが難しい場合）
- ・支援者のメンタルケアも大切。狭い地域の為、顔が見えすぎるが故の相談しにくさがある。
- ・養護学校の先生などの巡回があると安心。
- ・リレーファイルの活用
- ・特別支援に関する地域理解の拡大が必要。



4 グループ（のぞみ園、なのはな園、東城保育所、田検小学校、名瀬保健所、宇検村保健福祉課）

- ・南部地区は、療育や相談を受けるにしても物理的な距離の問題がある。
- ・支援の必要性について、保護者に理解してもらうまで時間がかかる。保護者が決断したときに、すぐに相談できるような体制が必要。
- ・送迎の課題がクリア出来たらよい。



5 グループ（チャレンジド、愛かな、なのはな園、名瀬保健所、瀬戸内町保健福祉課）

- ・ 支援者と話す機会が少なく、こういった支援をすればよいかわからない。
- ・ 職場内での連携について（支援の方向性の共有）
- ・ 学校へ保護者の困り感を伝えたくて支援に入ると、壁を感じることもある。
- ・ 保護者から事業所へ休日に来ることもある。
⇒ 土日に相談出来る場所があれば。
- ・ 連携の際に、どの機関がどこまでやるのかという事が共通して分かればありがたいとの意見があった。
- ・ 地域の関係者同士は、支援 net など話す場はできてきているとを感じるが、保護者同士にも伝えあえる場があったらよい。



6 グループ（オンライン：療育センター、にこびあ、ぴあリンク）

- ・ 地域の資源不足は、人材不足が根底にある。
- ・ 保育園や学校なども、県全体として課題となっていることである。
- ・ 新たな人材確保は難しい現状であることから、現状の支援者のスキルの底上げを行っていくことが必要。（一般の保育士なども含め）
- ・ 顔の見える関係を作ることの大切さを改めて感じた。

